

おりつきたやま

-

8 木簡の釈文・内容

(1) 厄令.....
部奉析☐ [突カ]
☐ ☐ 重

五部]

$$(50+13) \times (124) \times 4 \quad 081$$



(配置は推定)

(早野浩二)

北山遺跡』(二〇〇〇年)

(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター『下津

9 関係文献

よりご教示を得た。

なお、釈読にあたっては、稲沢市教育委員会の愛甲昇寛、名古屋大学の稲葉伸道、名古屋短期大学の上村喜久子、岐阜聖徳学園大学の清田善樹、日本福祉大学の福岡猛志、中京大学の村岡幹夫の各氏

木簡は、接合しない二片と墨痕が確認できない一片があるが、元来は一点の木簡だったものと推定した。全体の形状は不明であるが、文字が記された二片はそれぞれ木簡の右端、左端に相当すると考えられる。材質はヒノキの板目材で、木目方向を横位にして文字を記す。墨痕は総じて不明瞭で、全体の文意は不明であるが、中世の寺院とする前述の推定と関わる語句が散見する。

愛知・清洲城下町遺跡

きよすじょうかまち

1 所在地

愛知県清須市(旧西春日井郡清洲町) 大字清洲字古城ほか

2 調査期間

一 一九八六年(昭61)八月～十一月、二 一九九二年(平4)十一月～一九九三年一月、三 一九九三年七月～九月、四 一九九六年二月～一九九七年三月、五 一九九七年十一月～一九九八年三月

3 発掘機関

(財)愛知県埋蔵文化財センター

4 調査担当者

一 梅本博志・小澤一弘・細野正俊、二・三大



(名古屋北部)

6

遺跡の年代 室町時代
後期～江戸時代

5

遺跡の種類 城郭・都市跡、集落跡

人・浅井厚規

黒田哲生・石黒立

健司・原田 幹、五

四 増澤 徹・宮腰

竹正吾・蟹江吉弘、